

はじまりの
名護屋城名護屋城の逸話や茶の湯の魅力について
歴史や文化芸術に詳しい佐賀新聞社中尾社長に聞きました。

第二回

「名護屋城で花開いた
桃山文化」能や茶の湯が大流行
文化都市でもあった名護屋

名護屋城は朝鮮出兵の前線基地。海に向かうでは一進一退の攻防戦が続きました。かたや秀吉は将兵たちの苦勞をよそに、名護屋で暇をもて余し、芸事に明け暮れる日々。能にもかなり心酔し、能役者呼び寄せ、自らも能を舞い、大坂城にいる妻ねね（北政所）に「能の演目を十番覚えたと手紙を書き送ったほど。

能が武家の式楽（公式の場の音楽）に位置づけられたのも、この頃です。名護屋の有力大名の陣屋には必ず能舞台と茶室があり、当時の流行ぶりがわかりますよ。

今日まで続く
日本文化の出発点

茶の湯で言うと、素朴な高麗茶碗が当時の流行でした。朝鮮に出兵した西国大名たちは多くの陶工を連れ帰り、自分の領地で窯をもたせました。唐津焼も朝鮮人陶工の手によって発展し、茶人たちに「一楽、二萩、三唐津」と称されたほど。同じように有田焼や薩摩焼、萩焼も朝鮮出兵をきっかけに生まれました。安土桃山時代の日本社会は、一旗揚げてやろうという野心家がたくさんいて、派手好きで新しいもの好き。外国の文化にも興味津々でした。そんな世風のなかで誕生したのが豪華華麗な桃山文化であり、名護屋の地で大きく花開いたのです。今日まで続く日本文化もまた、はじまりの名護屋城。

佐賀新聞社社長
中尾清一郎はじまりの地 今、ふたたび。
名護屋城大茶会

日時 令和4年 3月27日 10:00~17:00

会場 肥前名護屋城跡及び名護屋城博物館、茶苑海月ほか
(佐賀県立名護屋城博物館:佐賀県唐津市鎮西町名護屋1931-3)

ステージイベント



- 長谷川理恵さん
スペシャルトーク & WabiYoga
- 講談 / 神田山緑
- 篠笛演奏 / 佐藤和哉
- 能楽実演 / 井内政徳
- 薩摩琵琶演奏 / 北原香菜子
- 鷹匠実演 / 石橋美里



再現茶会

秀吉が名護屋城で楽しんだもう一つの茶室「草庵茶室」がステージに登場

同日 13:00公開スタート

よみがえる黄金の茶室



豊臣秀吉が名護屋城で使った「黄金の茶室」を再現。

名護屋城博物館
2階常設展示室

県内茶道団体による呈茶席

※有料 ※茶席の当日受付は15時まで

名護屋城マルシェ

美味しいグルメやかわいい雑貨が大集合

佐賀県
佐賀県 文化課
TEL.0952-25-7236はじまりの
名護屋城。

The Beginning of New Cultural Tourism from SAGA

詳しくはコチラ



※次回は3月13日(日)に掲載予定。お楽しみに！（前回3月7日分は左記二次元コードよりご覧いただけます。）